

〔科目名〕 社会保障論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 大矢 奈美		〔オフィス・アワー〕 時間：1 回目の授業でお知らせします 場所：523 研究室			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 <p>社会保障は、近年、その重要性を高めている。この講義では、まず社会保障とは何か、その理念は何かを考える。社会保障制度は、「互いに助けあい支えあう」ことを基本としているものと考えられるが、実際の運用には資金が必要となる。これを誰がどのように負担し、誰に配分するのかが重要な問題だろう。現代社会において所得を得る手段の中心は「雇用労働」にある。失業、休職は社会保障制度による支援を必要とする場面も多く、労働市場とも密接なつながりを持つ。よって、本講義では、日本の社会保障制度を主に経済の側面から分析する。</p> <p>社会保障は範囲も広く、多岐にわたっているため、残念ながら全ての分野について取り上げることは難しい。そこで個別の制度として公的年金と医療制度、および生活保護を取り扱い、それ以外の制度は授業の中で課される課題などによって受講生が独自に学ぶような仕組みにしたい。</p> <p>社会保障制度は社会の変化に対応する必要もあるため、政府内でも継続して改正案が検討され、細かな変更が重ねられている。本講義では、制度に関しては 2025 年 3 月時点の現行制度のうち普遍的なものを主な対象とし、適宜、改革案などについて紹介することとする。</p> <p>本講義では経済学の視点から問題を検討することを基本姿勢とするが、別の視点から問題を検討する機会を設けたい。授業の 14 回目に、青森県立保健大学・権順浩准教授に担当していただく予定である。</p>							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>現代日本人の生活は、社会保険を中心とした社会保障制度によって支えられている。たとえば公的年金制度。老齢年金だけでなく、障害年金、遺族年金もある。しかし、人口構成の変化によって給付水準の維持が難しくなり、それが制度に対する国民の不安・不信をもたらすという悪循環や、非正規雇用者など将来の低年金リスクを抱えた層の拡大の懸念など、公的年金制度が抱える問題も多い。社会保障を考えるにあたっては、労働市場、財市場、金融市場の構造を見つめる必要もある。</p> <p>この講義では社会保障の問題を日本経済と結び付けて検討するというアプローチをとる。よって、1 年時次の日本経済概論およびミクロ経済学、2年次のマクロ経済学の知識を前提とする。社会保障関連支出を考えるにあたっては、政府の財政状況に関する知識(財政学)、経済統計で扱った統計に関する知識も必要になる。また社会保障制度には雇用・生活扶助に関するものも含まれるので、労働経済学にも重なる分野でもある。</p>							
〔科目の到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の理念、社会保障制度の仕組みをマクロの視点から理解する ・公的年金制度などの個別制度の仕組みを理解し、これら制度の今後の在り方について自分の意見を持つ 							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○	○				○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>提示資料の見やすさについてコメントがあった。機材トラブルへの速やかな対処を心掛けるとともに、今年度も重要な部分は、レジュメ等で配布する。</p>							

<p>〔教科書〕 特に指定しない。</p>	
<p>〔指定図書〕 ・椋野・田中『はじめての社会保障』(第 22 版)有斐閣, 2025 年 3 月末刊行見込み(たぶん) ・小塩隆士『社会保障の経済学』(第 4 版)日本評論社, 2013.</p>	
<p>〔参考書〕 ・清家・風神『労働経済』東洋経済新報社, 2020 年. ・西村淳編著『入門テキスト 社会保障の基礎』第 2 版、東洋経済新報社, 2022. その他、必要に応じて授業中に提示する。</p>	
<p>〔前提科目〕 マクロ経済学、財政学、労働経済学 など (特に財政学) 財政学、労働経済学に関連する分野については講義中に時間的に可能な範囲で説明を加える予定。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・理解度確認のための小テスト(対象:1~6回目)と 雇用保険制度についてのクイズ ・期末試験(対象:1~15回目。筆記による)</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 受講生の理解度を見ながら進度を決定するので、シラバスの通りには進まない可能性がある(制度変更の状況にも左右される)。また、一つのテーマを複数時間に分けて講義するので、可能な限り出席すること。出席はとらないが、出席していることが基本であるから、それを前提に講義を進める。 限られた授業時間数の中では、個別の社会保障制度について詳細に説明するのは難しく、また受講生にとっても講義のみで理解することは不可能だと思う。すくなくとも制度の概要程度は、指定図書を参考に、自ら把握するよう自習すること。椋野・田中『はじめての社会保障』は制度について詳細かつ丁寧に整理されている。 社会保障は、私達の生活に深い関わりを持っている。自分なりの興味や関心を持って授業に臨んでほしい。</p>	
<p>〔実務経歴〕 なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会保障とは何か 内 容: ガイダンス、社会保障の考え方(1) 社会保障とは何か、歴史的展開 教科書・指定図書 椋野・田中(25 年 3 月末刊行予定のため、該当する章については講義で説明。以下同じ)、小塩(第 1 章)</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: 社会保障の考え方(2) 日本の社会保障制度の展開と時代背景 教科書・指定図書 椋野・田中</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: 社会保障の考え方(3) 政府の介入が必要とされる理由、負担と給付のあり方 教科書・指定図書 小塩(第 1 章)</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会保障と国民負担・財政収支 内 容: 国民経済計算, マクロ統計からみた社会保障, 社会保障制度の実施主体</p> <p>教科書・指定図書 小塩(第2章)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 所得再分配に対する社会保障の役割 内 容: 日本の所得格差、再分配後の所得格差</p> <p>教科書・指定図書 小塩(第3章)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): ミクロ経済学の視点から考える 内 容: 労働市場と社会保障 ほか</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会保障制度の概要についてのまとめ 内 容: 社会保障制度の概要の確認 および クイズによる理解度の確認</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公的年金制度 内 容: 公的年金制度の意義と体系、財政</p> <p>教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩(第4章)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: 公的年金制度の理念と仕組み</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: 公的年金制度の抱える問題点と制度改革</p> <p>教科書・指定図書 小塩(第4～6章)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 医療保険制度 内 容: 医療保険制度の理念と仕組み(1)</p> <p>教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩(第7章)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: 医療保険制度の理念と仕組み(2)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: 医療保険制度の抱える問題点</p> <p>教科書・指定図書 小塩(第7・8章)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公的扶助 内 容: 青森県立保健大学・権順浩准教授による講義</p> <p>教科書・指定図書 棕野・田中</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: 生活保護制度の課題</p> <p>教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩(第10章)</p>
試験	<p>授業で扱った内容全てについて筆記試験をおこなう</p>